

# 長期ステロイド使用後に手荒れと全身リバウンドを経験した成人アトピーの経過 (36 歳女性)

症例 ID：001-30-HS | 記録日：2012 年 1 月 15 日

## 1. 診断・治療前経過

幼少期から肌が弱く、小児アトピーと診断され、その頃からステロイドとの付き合いが始まりました。中学生頃には膝や肘裏の湿疹はなくなりましたが、身体の擦れる部分の水泡や、水仕事による主婦湿疹のような手荒れに悩まされました。

町の皮膚科でステロイド薬や、ステロイドにザーネやワセリンを混ぜて薄めたクリームを処方され、保湿クリームのように塗っていました。かゆみが強い夜には、処方されたステロイド入りの内服薬を使用していました。

## 2. ステロイド使用歴

| 項目    | 内容                                                |
|-------|---------------------------------------------------|
| 使用内容  | ステロイド外用薬、ステロイドを混ぜたクリーム、ステロイド入りと考えられる内服薬を使用していました。 |
| 製品名   | 不明。ザーネやワセリンを混ぜたクリームの使用記録があります。                    |
| 強度    | 不明。                                               |
| 使用期間  | 幼少期から来院前まで長期にわたる使用歴があります。                         |
| 中止時期  | 松本医院受診後、ステロイドを断ち切る方針となりました。                       |
| 来院前／後 | 来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。                       |

## 3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

| 時期        | 治療開始から  | 経過                                                            |
|-----------|---------|---------------------------------------------------------------|
| 幼少期       | 来院前     | 小児アトピーと診断され、ステロイド使用が始まりました。                                   |
| 成人期       | 来院前     | 手荒れや身体の擦れる部分の水泡に対して、ステロイド薬や混合クリームを使用していました。                   |
| 松本医院受診後   | 治療開始    | 煎じ薬や塗り薬を始め、ステロイドを断ち切る治療を開始しました。                               |
| 中止 1 か月後頃 | リバウンド開始 | 体液がじゅるじゅると出るようになり、どこまで広がるのか不安になりました。                          |
| 2～4 か月頃   | ピーク期    | 首、腕の肘近く、足首、手の甲、足の甲まで広がり、ぱんぱんに腫れ、強いかゆみがありました。毎日のように薬草風呂に入りました。 |
| その後       | 回復傾向    | 痒みや体液が抑えられるのを感じながら、仕事を続けて乗り越えました。皮膚が日に日に良くなり、手のひらを擦り合わ        |

|  |  |                          |
|--|--|--------------------------|
|  |  | せるとつるつるした感触を感じるようになりました。 |
|--|--|--------------------------|

#### 4. ピーク時期

ピークは、ステロイド中止から 1 か月後以降に体液が出始め、2～4 か月頃に首、腕、足首、手の甲、足の甲まで広がり、強いかゆみと腫れがあった時期です。

#### 5. 困りごと

- ・手の症状が仕事に影響し、職場では手袋着用の許可をもらっていました。
- ・体液が出る範囲が広がり、どこまでひどくなるのか不安がありました。
- ・暑い時期と重なり、かゆみと不快感が強くなりました。
- ・薬草風呂を毎日のように続ける必要がありました。

#### 6. 経過のまとめ

長期にわたるステロイド使用後、ステロイド中止から 1 か月頃に体液が出始め、2～4 か月頃には首、腕、足首、手の甲、足の甲まで広がる強い時期を経験しました。

その後は痒みや体液が抑えられる感覚を支えに仕事を続けながら乗り越え、手のひらに皮膚が再生して強くなっていく感触を得られるようになりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。  
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。